

# 「社会参画意識育つ」

## 福井で研究会 教員ら成果報告



NIE(教育に新聞を)実践指定校の小中学校教員らでつくる「県NIE教育研究会」の本年度第3回全体会は27日、福井市の県教育センターで開かれた。NIE活動に長年取り組む県外の教員の講演や県内実

践校8校の成果報告があり、次期学習指導要領が求める「主体的・対話的で深い学び」や、教科に格上げされる道徳を見据えた新聞活用法を探った。日本新聞協会NIEアドバイザーを務める大阪市開平小の中島順子教諭が「NIEで主体的に学ぶ授業とカリキュラムづくり」と題して講演。ニュースについて話し合うコミュニティを校内につくる

ことが大切とし、「小学校の低学年段階から新聞に触れることで、ニュースに関心を寄せ

て行動する、社会に参画する姿勢が育つ」と力を込めた。実践校の活動報告では、若狭町瓜生小の大峽美紀教諭は、6年の社会で地域の古墳群につ

NIE実践指定校の活動報告やアドバイザーの講演があった全体会＝27日、福井市の県教育センター



めたり、国語で「核兵器廃絶国際キャンペーン」にノーベル平和賞の記事を読み、意見文を書いたりした活動を紹介。「児童は徐々に社会に目を向け、社会の出来事に興味を持つようになってきた」と話した。越前市武生三中は、来年度から教科に格上げされる道徳での新聞活用を研究。3年生では「人間の強さや気高さ」を主題にした授業で、乳がんで亡くなった小林麻央さんに関する記事を題材にした。高橋直樹教諭は「記事をどのように使うのか教員同士が話し合いを重ね、教材研究が深まった」と報告した。全体会には実践校8小中学校、来年度からの新規実践校の教員ら約30人が出席した。(宇野和宏)